

デジタル北斎 旅の思い出 成田空港

浮世絵師・葛飾北斎の作品をデジタル化したアート空間が、成田空港にお目見えした。搭乗ゲートにつながる幅約12メートルの通路を展示の舞台として活用。長さ約57メートルにわたって、壁などに複製画を飾ったり、動画を映し出したりにしている。

『Digital×北斎 in Narita Airport』と銘打った催しで、成田国際空港会社（NAA）がNTT東日本千葉事業部など3社と連携して開催した。「富嶽三十六景」（山梨県立博物館所蔵）や、岩松院（長野県小布施町）の本堂天井に描かれた「鳳凰図」など、北斎の代表作の高精細デジタルデータを活用し、精巧な複製画などを作り出したという。第2ターミナルの出国手続きを終えたエリアに展示してお

り、出国直前の旅客の目を楽しませている。

成田空港ではコロナ禍が沈静化し、外国人旅客の利用が回復しつつある。出国前に海外でも人気が高い北斎の浮世絵に触れてもらうことで、再来日を促したいという。北斎作品がある山梨県や長野県など、地方に足を延ばしてもらうきっかけをつくる狙いもある。



① 通路に飾られた岩松院本堂天井絵「鳳凰図」の縮小版複製画
② 富嶽三十六景の動画（いずれも23日、成田空港第2ターミナルで）

『読売新聞』2024年1月27日付33面